

1. 圏域の概要

(1) 水産業の概要

① 圏域内に位置する市町村および漁業協同組合の概要

「渡島東部圏域」は、北海道南部渡島総合振興局管内のうち函館市（旧南茅部町）を有する東部に位置しており、第1種漁港4港、第2種漁港1港、第3種漁港1港を有している。南かやべ漁業協同組合は、我が国初のコンブ養殖事業に成功し「白口浜真昆布」として知られる昆布を生産している。

② 主要漁業種類、主要魚種の生産量、資源量の状況

主たる漁業種類は、刺し網漁業、大型定置網漁業であり、その他コンブ養殖漁業等が営まれている。

圏域内における属地陸揚量は約40千700ト、属地陸揚金額は約75億円（令和元年港勢調査）である。

③ 水産物の流通・加工の状況

当圏域内は、流通拠点漁港として第3種臼尻漁港、生産拠点漁港として第1種大舟漁港等が存在する。その後、道内の函館、札幌向けに出荷している。加工品としてはガゴメコンブが有名である。

④ 養殖業の状況

当圏域内は、コンブ養殖漁業が多く営まれており、圏域内に種苗生産施設が整備されており、安定した供給を行っている。

⑤ 漁業経営体、漁業就業者（組合員等）の状況

令和元年港勢調査によれば、当圏域の漁業経営体数は752戸、組合員数は953人となっており、経営体数と組合員数が近接している。また、平成27年と比較すると漁業経営体数は85%、組合員数は87%とそれぞれ減少している。

⑥ 水産業の発展のための取組

水産資源の増大に向けて、荒廃漁場（雑海藻繁茂地）の雑草駆除のほか、ウニやマ

ツカワの種苗放流などの増殖事業を積極的に取り組んでいる。また、独自に策定した衛生管理マニュアルに基づき、水産物の衛生管理と鮮度保持に努めている。

⑦ 水産基盤整備に関する課題

津波等の災害における避難経路の確保が課題である。

また、主要産業である養殖漁業の就労環境は過酷であり、漁業者の高齢化が進んでいるので、改善が必要であるほか、圏域内各漁港で漁港施設の老朽化や水域施設の堆砂が進んでおり、機能保全対策が必要である。

⑧ 将来的な漁港機能の集約化

当圏域では既に漁港機能の集約化が進んでおり、特段の将来的な構想は無い。

(2) 圏域設定の考え方

① 圏域タイプ	流通拠点（一般）型	設定理由； 水産物を集約する産地市場を有する流通拠点港でセリ等を行い、消費地や加工場に出荷する。
② 圏域範囲	函館市（旧南茅部町）の漁港	設定理由； 流通拠点漁港へ水産物を集約している。
③ 流通拠点漁港	臼尻漁港	設定理由； ・圏域内最大の市場を有し、水産物が集約され、属地陸揚金額 14 億円以上の水産物を扱っている。 ・水産物輸送の効率化を図るとともに、災害発生時の避難に資する臨港道路の整備を計画。
④ 生産拠点漁港	1) 古部漁港 2) 木直漁港 3) 尾札部漁港 4) 川汲漁港 5) 大舟漁港	設定理由； いずれも地先に優れた漁場を有し、定置漁業や刺網漁業等の漁船漁業の拠点として圏域内水産業の振興上重要な役割を担っている。 2) 3) 4) 5) は製氷施設を有し、周辺漁港における準備機能の中心的役割を担っている。
⑤ 輸出拠点漁港	臼尻漁港	設定理由； サケやスケトウダラ、ブリ、ホタテガイ等の水揚げが多く、今後輸出に向けた取

		組が期待できる。
--	--	----------

(令和元年)

圏域の属地陸揚量(トン)	40,726	圏域の登録漁船隻数(隻)	1,157
圏域の総漁港数	6	圏域内での輸出取扱量(トン)	不明
圏域で水産物の水揚実績がある港湾数			

⑥「養殖生産拠点地域」について

当該圏域を含む養殖生産拠点地域名	渡島東部養殖生産拠点地域
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における主要対象魚種	コンブ類
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における魚種別生産量(収穫量)(トン)	11,552t
当該圏域を含む養殖生産拠点地域における魚種別海面養殖業産出額(百万円)	400百万円

2. 圏域における水産基盤整備の基本方針

(1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

①拠点漁港等の生産・流通機能の強化

・生産・流通機能の強化

当該圏域では漁獲物の鮮度管理による高付加価値化として、イカやブリの鮮度管理の徹底と一本釣り活〆ブリのブランド化を図っている。

また、臼尻漁港(流通拠点漁港)では、荷捌き作業における混雑の解消や栄養衛生管理向上のほか、水産物の輸送効率化を図るため道路の整備を計画している。

・輸出促進への対応

臼尻漁港では、輸出対象魚種の水揚げが多く、輸出に向けて生産量の安定化、鮮度保持を含む輸送効率向上による高品質化を進める必要がある。

②養殖生産拠点の形成

コンブについて、生産量の維持と価格の向上を図るため「函館産コンブ」として統一したブランドの知名度向上に係るPRや未利用資源である養殖コンブを間引いた「春採りコンブ」加工品の規格・品質の統一を推進している。

(2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

①環境変化に適応した漁場生産力の強化

当圏域は低気圧による被害や海洋環境の変化によるコンブの漁場や魚類の育成場となる藻場が減少し代表的な磯根資源であるコンブの漁獲量が減少している。

このため、生息環境の整備により漁獲量の安定、増加が期待される魚種として、沿岸から沖合まで成長に伴い移動するソイ類やアイナメの育成の場やコンブの漁場となる藻場を底質改善による回復及びコンブが繁茂する整備水深を考慮した施設によって整備することにより、水産生物の生活史に配慮した広域的な水産環境の整備を行い、環境変化に対応した漁業生産力の強化を図る。

②災害リスクへの対応力強化

- ・ 漁業地域の安全・安心の確保

大規模地震被害発生時に、漁業活動の早期再開が可能となるよう防災機能の強化を図る。

また臼尻漁港では、津波・台風などの災害時に漁村集落から国道バイパスまでの避難路としての臨港道路整備を計画している。

- ・ 被災後の地域水産業の早期再開

臼尻漁港（流通拠点漁港）では、令和2年3月に「臼尻地域における水産物の生産・流通に関する業務継続計画」を策定し、災害発生後における水産業の早期再開を可能とする体制を構築している。

- ・ 持続可能なインフラ管理の推進

当圏域には、老朽化の著しい漁港があるため、機能保全事業により予防保全型の老朽化対策を行っている。

(3) 「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上

① 「海業」による漁村の活性化

当圏域内の川汲漁港（安浦地区）では、PB等漁船以外の船舶へ漁港施設を開放しており、地域の活性化に取り組んでいるため、連携した漁港整備を推進する。

② 地域の水産業を支える多様な人材の活躍

多様な担い手の活躍を推進するため、就労環境や生活環境の改善に繋がる漁港整備を推進する。

3. 目標達成のための具体的な施策

(1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

① 拠点漁港等の生産・流通機能の強化

地区名	主要対策	事業名	漁港・港湾名	種別	流通拠点
臼尻	流通機能強化	直轄	臼尻	3	○

臨港道路の整備による水産物輸送の効率化を図る。

②養殖生産拠点の形成

「2. 圏域における水産基盤の基本方針」のとおり。

(2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

①環境変化に適応した漁場生産力の強化

地区名	主要対策	事業名
噴火湾周辺	藻場・干潟	水産環境整備事業

低気圧による被害等により藻場が減少している沿岸域に、コンブ漁場やソイ類、アイナメといった魚類稚魚の育成場となる藻場整備やウニの密度管理による藻場の維持管理を行うほか、小型海藻類等の繁茂により荒廃したコンブ漁場の回復のため、岩盤清掃や底質改善を実施する。

②災害リスクへの対応力強化

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
古部	予防保全	機能保全	古部	1	
木直	予防保全	機能保全	木直	1	
尾札部	予防保全	機能保全	尾札部	2	
川汲	予防保全	機能保全	川汲	1	
臼尻	安全・安心	直轄	臼尻	3	○
大舟	予防保全	機能保全	大舟	1	

臨港道路の整備により大規模災害発生後における水産業の早期再開を可能とする体制を構築する。

漁港施設の老朽化や破損状況を把握し、予防保全型の対策を行うことで漁業環境の安全確保を図る。

(3) 「海業」振興と多様な担い手の活躍による漁村の魅力と所得の向上

①「海業」による漁村の活性化

「2. 圏域における水産基盤の基本方針」のとおり。

②地域の水産業を支える多様な人材の活躍

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
臼尻	就労環境	直轄	臼尻	3	○

臨港道路の整備により混雑解消や利便性等の就労環境を改善することで、多様な担い手の確保を図る。

4. 環境への配慮事項

当圏域内にあつては、周辺海域が天然コンブの好漁場となっているため、漁港整備による漁場の消失を最小限にするべく施設配置箇所には十分に配慮した港形にするなど海岸環境への影響を可能な限り少なくする整備を実施してきた。今後にあつても、自然環境への配慮を十分に施していくことはもちろんのこと、工事の実施にあつては水質汚濁や騒音等公害の発生防止に十分な監視体制を取りながら整備を進めていく。

また、沿岸域へ藻場を整備することにより、水質の浄化作用や、沿岸の藻場を生育場とする魚類等の生活環境が創造され、幼稚魚や未成魚の保護・育成効果が期待できる。

5. 水産物流通圏域図

別紙のとおり

